

特別支援学校 学校評価一覧表①（令和4年度版）

群馬県立盲学校（様式1）

評価対象	評価項目	具体的数値項目	※各学校で設定	方 策	第1回 点検・評価		第2回 点検・評価				
					自己評価	外部アンケート *授業アンケート等(7月)	改善策	自己評価	外部アンケート *保護者アンケート(12月) *授業評価アンケート(12月)	改善策	
I 幼児児童生徒の地域における豊かな生活の実現に向けて努めていますか。	1 保護者、地域、関係機関に学校の教育活動について、具体的に伝えてありますか。	①「学校の様子がよく分かる」と保護者の80%以上が答えている。	教頭	○保護者と情報共有を密にする。 ○便りやクラス通信、HP、一斉メール等を通して、学校の教育活動について情報発信する。	A		・今後も、色々な場面でICT化を推進し、学校からの情報発信や保護者との情報共有を行っていく。 ・日頃から保護者との情報共有を大切にしていく。	A	A	・ICTを活用した情報公開を引き続き積極的に行っていく。 ・感染症対策を行いながら、授業公開等の行事を徐々に正常化し、保護者への情報発信を行っていく。	
		②地域や関係機関等に学校の様子を伝える活動を、年10回以上実施している。	教務主任	○感染症対策を行った学校行事や学校公開で、盲学校の様子や教育活動について地域・関係機関に紹介する活動を行う。また、ホームページ等を使用し効果的に伝える。	A		学校見学等の依頼があった際は感染症対策を行い個別に対応した。今後も授業公開や学校見学については、個別に対応し安全に実施していく。また学校の様子をホームページ等で伝えていく。	A		感染症対策を行い、地域や関係機関へ学校の活動の紹介を継続していく。できるだけ、希望に添うように学校見学を受け入れていく。また、ホームページ等で、学校行事等を紹介していく。	
		③県内の自治体や視覚障害関係機関(視覚障害福祉センターや点字図書館等)と連携を密にし、啓発活動を行っていると感じる職員が80%以上いる。	センター・啓発	○HPのリンクなどを活用し、ウェブ上での情報共有を行う。 ○まゆだまネットなどの場を利用し、連携を密にする。	B		対面による連携・啓発が困難な状況にある中で、オンラインを活用するなど、新たな啓発方法を考えていきたい。また、報道機関等からの取材対応などを啓発の機会として大切にしていきたい。	A		対面による連携や啓発は少しずつ再開することができたが、今後どのような状況下でも啓発活動が実施できるよう、係職員のICTスキルの向上に努めたい。	
	2 保護者、地域、関係機関との共通理解が深まり、有効な支援が行われていますか。	④PTA総会、役員会、保護者交流会、部会、教育懇談会などのPTA行事に参加し、内容に満足している保護者が80%以上いる。	渉外部	○PTA行事の内容ややり方を感染症の流行状況を踏まえて柔軟に実施する。また、必要に応じて精選する。 ○保護者同士が意思疎通を図り、情報を共有して学部を超えた繋がりができるよう活動していく。	A		総会、役員会の会場設定や議題など、感染症対策を行ったうえで計画、実施できた。	A		A	・日頃より、学校に対する保護者のニーズを収集してPTA行事の内容や回数、時季などを決定する。 ・準備や片付け、運営など会員が参加する部分を増やすことで、活動意欲を高められるようにする。
		⑤地域の学校や関係機関と連携を図り、情報共有や交流などが十分に行われていると感じる保護者が80%以上いる。	センター・交流	○感染症対策を踏まえ、資料の送付による情報提供や、本校の職員を講師として派遣するなど、視覚障害者についての理解を深めるための活動や学習を進める。	A	A	コロナ禍で対面による交流は難しい状況にあるが、オンラインを活用した交流など、新しい取り組みがスタートしており、そうした取り組みを充実させていく。	A	A	・対面での学校間交流や居住地域交流が少しずつ再開されている。限られた機会を大切に、交流内容の充実を図っていきたい。	
II 地域の特別支援に関するセンター的な役割を果たしていますか。	3 視覚障害や視覚認知発達に課題のある幼児児童生徒等の教育について、助言援助に努めていますか。	⑥地域の視覚障害支援センターとして教育相談やキャリア支援などを実施し、関係機関との情報共有をして連携・協力体制を取れているケースが80%以上ある。	センター 目の相談	○感染症対策を考慮し、電話やメールでの相談を積極的に実施する。相談者の関係機関との情報共有を行うことで、支援・協力体制を強化する。 ○相談者や関係機関に対して、活用しやすい情報提供を行う。	A		ほぼすべてのケースで来校相談後に関係機関へ電話での報告や情報交換を行うことができた。相談者のニーズに合わせて活用しやすい情報提供ができるようにしていきたい。	A	A	・連携する機関が多岐にわたっており、支援者のニーズも様々になっている。情報共有の際には、関係機関のニーズやリソースを聞き取りながら、活用しやすい情報提供を行っていく。	
		⑦地域支援・啓発活動として、学校見学の受け入れ、研修会の実施、講師派遣等の要望に80%以上応じている。	センター・啓発	○地域からの要望に応じて、研修内容を考え、適任な講師を派遣する。 ○説明資料のデータ化、共有化を進める。	B		コロナ禍になり十分な取り組みができていない状況にある。今後はオンラインを活用するなど、新しい取り組みを充実させていきたい。	A		対面による連携や啓発は少しずつ再開することができたが、今後どのような状況下でも啓発活動が実施できるよう、係職員のICTスキルの向上に努めたい。	
III 幼児児童生徒一人一人の実態に応じた適切な指導をしていますか。	4 個に応じたきめ細かな指導を行っていますか。	⑧幼児児童生徒一人ひとりの課題解決に向け取り組んでいると思う職員が80%以上いる。	生徒指導部 部主事	○アンケートや面談を行い、得られた情報を分析し、課題の早期発見につなげる。 ○情報を校内LANに記録し、随時確認できるようにする。	A	A	アンケートと面談結果から、生徒の課題について、部会等で情報共有を行う。	A	A	・アンケート結果から、聞き取りが必要と判断した児童・生徒には面談を実施し、保護者にも内容を確認するなどして情報共有を行った。	
		⑨幼児児童生徒のいじめ対策への取り組みが、保護者の80%以上に認められている。	生徒指導部	○いじめの早期発見に向けて、各学期に2回のアンケート調査を実施する。 ○保護者に対しPTA総会等で、本校のいじめ対策への取組について説明し、共有する。	A	A	・第1回生徒指導アンケートを実施し、生徒の問題発見に努めた。 ・保護者に対し、PTA総会にて、配布物および口頭で、本校のいじめ防止の取組について周知した。	A	A	・第2回生徒指導アンケートを実施し、生徒の問題発見に努めた。 ・生徒指導アンケートでは、児童・生徒への配付に加え、保護者にも同様に配付することで、本校の取組を知っていただいている。	
	5 指導内容の確実な定着を図る授業が行われていますか。	⑩個々のニーズに応じた教材や指導の工夫に努めていると思う保護者・職員が80%以上いる。	教科研究グループ	○丁寧な観察を行い、個々の特性を伸ばせるように指導方法の改善を図る。 ○ICT等を活用し、個別最適な学び、協働的な学びを図る。	A	A	個別の指導計画の基になる実態把握表について、視機能に関わる項目を整理・追加した。個々の視機能に応じた指導方法の改善を図っていく。	A	A	・個別の指導計画の基になる実態把握表について、新たにタブレット端末の活用に関する項目を整理・追加した。個々の実態把握が適切に行われるよう、新書式を活用していく。	
教科研究グループ			○「指導の工夫事例集」を作成すると共に、今までの事例を研修等で共有できるようにする。 ○群馬大学等外部専門機関と連携し、児童生徒の指導力の向上を目指す。	B	A	指導の工夫事例について、過去の事例集の紹介を行った。現在各教員が事例の作成中なので、過去の事例も参考にしていけるよう紹介していきたい。	A	A	・今年度作成した指導の工夫事例集を含め、過去の事例集も活用しやすいように、校内研修の中で事例集を共有できる機会を設けていく。		

IV 視覚障害教育の専門性がある特別支援学校を目指す取り組みが行われていますか。	6 専門性の継承と深化に向けた研修や発信するための取り組みが行われていますか。	⑫専門性・指導力を高めるための研修が組織的・計画的に行われていると思う職員が80%以上いる	研修部・自立活動研究グループ	○児童生徒の実態、指導面での課題に合わせて、点字、歩行、弱視教育、重複障害教育、ICT活用に関する校内研修やワークショップを実施する。	A	A	各係による小規模学習会を放課後や夏休みに実施。それぞれ希望者が参加し、その中で日頃の指導での課題なども話し合うことができた。今後も各教員のニーズに合わせた学習会を企画、実施していきたい。	A	A	・児童生徒の実態が多様化する中で、指導者側のニーズも様々になっている。今後も各職員のニーズに合わせて小規模学習会を企画できるようにする。
	7 専門性を高めるために、校務分掌や委員会などが組織体として機能していますか。	⑬ケース会議、授業研究、各学部及び寄宿舎における研修が、視覚障害研究・研修部が持つ専門性と連動して行われ、効果を上げていると感じる職員が80%以上いる。	教頭 研修部・自立活動研究グループ	○視覚障害研究・研修部の専門性を各学部及び寄宿舎における実際の指導・支援に生かせるように、情報共有を効果的に行う。	A	A	ICTや点字の小規模な職員対象学習会活動を行い、研修活動に参加しやすくなる工夫をし、専門性の向上を図った。	A	A	職員のニーズに合わせた小規模学習会を実施した。実際の指導・支援により活かしやすいように、ワークショップ形式、実習形式で行った。
		⑭学校評価による改善の取り組みが校務分掌と連携して進められていると感じる職員が80%以上いる。	教頭	○評価結果を分析し、担当の分掌で改善策を検討し、具体的な改善に繋げる。	A		・結果を職員全体で共有し、担当分掌を中心に具体的改善を図っていく。	A		・児童生徒の個別の課題解決に向けて組織的な取組を進めることで、より実効性のある改善としていく。
		⑮幼児児童生徒一人ひとりのニーズに応じた教育計画を立てる上で、校内教育支援委員会が機能していると感じる職員が80%以上いる。	教育支援委員会	○校内教育支援委員会において、学部を越えた全体的・長期的な視点での教育計画を考え、指導・支援の適切な方向性を見出す。必要に応じて臨時校内教育支援委員会を開催する。	A		・年2回の定例委員会の他に児童生徒の適応状況において臨時に会議を設定した。今後も必要な検討は各学部で行うようにする。 ・学部や教科をまたいで、児童生徒の教育計画や教育環境について検討を続けていく。	A		・児童生徒ひとり一人の課題を委員会で共有する。その課題解決のために、教育課程の見直しや指導方法等の改善をする。そのために委員会の活用を継続する。
8 障害に配慮した教育環境の整備が行われていますか。	⑯視覚障害などに配慮して校内の施設・設備の整備が行われていると感じる保護者・職員が80%以上いる。	管理部 事務部	○様々な視覚に対応できるように適宜必要なものを連絡報告相談して対応していく。 ○危険性の高いものから順次整備を行う。	A	A	・点字ブロックの修繕や頭をぶつけそうな角にクッション材を取り付けた。学校内の安全点検を毎月1回行い、修繕や危険箇所を確認して、速やかな対応をしている。	A	A	・学校内の安全点検を毎月1回行い、修繕や危険箇所を確認して、速やかな対応をしていく。	
V 健康や安全の確保に努めていますか。	9 健康に関する配慮や対応を適切に行っていますか。	⑰幼児児童生徒の健康状態や安全への対応が適切に行われていると感じる保護者・職員が80%以上いる。	健康指導部	○新型コロナウイルス感染症拡大防止をはじめとする保健環境の整備に継続して取り組み、学校生活の安全確保の強化を組織的、計画的に行う。 ○学部・保護者・寄宿舎と連携して健康状態を把握し、適切に対応する。 ○学校給食を通して、食事の大切さや望ましい食習慣を身につけさせ、健康教育を推進する。	A	B	・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、児童生徒に手洗い、手指消毒、マスク着用などの感染症対策を継続して指導し、徹底させている。換気や環境消毒などは、職員が適切に行い、安全な教育環境の維持に努めている。 ・健康観察の記録表を継続して活用し、児童生徒の健康状態を把握している。 ・献立表に調理担当からのメッセージを盛り込むなどして食についての情報を発信している。	A	A	・県内の感染症の状況を把握し、校内、保護者と情報共有し、必要な感染防止対策に取り組んでいく。 ・健康観察の記録表に家族の健康状態を記入する欄を設けた。今後も、児童生徒の健康状態をより適切に把握するために活用していく。 ・食材や行事食について、献立に記載するとともに、給食の時間中に放送した。今後も、食への関心を高める手立てを講じていく。委員会活動は、少人数でできる内容を工夫して行っていく。
	10 危機管理体制が確立され、緊急時への備えができていますか。	⑱緊急時の対応や施設・設備の安全に備えた訓練や点検が行われていると感じる職員が80%以上いる。	管理部 寄宿舎	○消防署と連携をとり、訓練前にアドバイスや点検を行う。 ○毎月の安全点検と備蓄品チェックを行う。 ○アレルギー対応を教室掲示し、緊急対応に備える。	A		・地震や火災、水害などの災害を想定して訓練を行い、改善点を見つけて対応策を職員と共有した。安全点検を行い、備蓄品の入れ替えを定期的に行っている。アレルギーに対して保護者と連絡を取り、物品の入れ替えを行った。	A		・様々な場面を想定して、災害に対応できるように、訓練内容を工夫していく。 ・災害時の備蓄品の入替やアレルギーのある生徒の備蓄品の入替を今後も定期的に行う。
VI 将来の生き方に結びつく進路指導を行っていますか。	11 キャリア教育の視点から、指導内容を整理して系統的な指導を行っていますか。	⑲キャリア教育の視点に立って将来を見据えた系統的な指導が行なわれていると感じる職員が80%以上いる。	進路指導部	○「キャリア教育全体計画」を教員、保護者に周知して共通理解を図る。 ○キャリア教育の視点に立った具体的な指導・支援を授業に反映する。	A		・児童生徒の進路選択の支援を図る。 ・個別の進路行事を保護者の理解と協力を得られるよう実施する ・進路に関する情報提供を行う	A		・児童生徒保護者の進路希望を聴取して適切な進路提案を行う。 ・進路行事の円滑な実施のため、関係機関への啓発を心がける。 ・職員生徒への進路希望に合った情報提供を行う。
		⑳あんま・マッサージ・指圧師、はり師、きゆう師国家試験に全員合格する。	専攻科	○日頃の授業、定期テスト、模擬試験等を通じて生徒一人一人の実態を把握し、個人々人にあった指導法と支援法を検討する。 ○補習を通して学力定着に努める。	B		・授業の様子や試験結果等から生徒の実態を把握し、基本的学力の定着および国家試験対策を進めていく。 ・授業では、生徒の気持ちに寄り添い、言動に留意しながら指導にあたる。	A		・保護者を含め関係者で情報を共有し、実態に応じた授業や課題等を実施し、学力向上を目指す。 ・視覚障害以外にも健康面の不安や悩みを抱えている生徒もいるので、きめ細かい観察と対応に努める。
	12 保護者、関係機関との連携のもとに発達段階に応じた進路指導を行っていますか。	㉑発達段階や実態に応じて、一人ひとりの将来へ向けての指導(あいさつや清掃等の指導も含む)が行われていると感じる保護者・職員が80%以上いる。	進路指導部	○発達段階や実態に応じた進路行事を検討する。 ○各関係機関との連携を深め、一人ひとりの実態にあった進路指導を実現する。 ○進路講話、「進路だより」等で進路情報の提供を積極的に行う。	B	A	・進路指導講話の内容等の検討を行う。 ・関係機関との連携を図り、進路先情報の収集に務める。	A	A	・進路行事の講師選定や外部参加者への呼びかけ等をできるだけ早期に開始する。 ・関係機関との連携をさらに進め、円滑な進路決定を図る。
VII 将来の自立に結びつく寄宿舎指導を行っていますか。	13 身辺自立・社会自立に向けての指導を個別に応じて行っていますか。	㉒身辺自立や社会自立に向けた指導が、一人ひとりに応じて個別に行われていると感じる保護者・教職員が80%以上いる。	寄宿舎 自立研修グループ	○コロナの感染状況に応じて、生活自立、余暇の充実に向け、生活体験や社会体験を実施する。 ○寄宿舎便り等を通じて、寄宿舎生活における具体的な取組状況を発信する。	A	B	・感染状況に応じた、余暇、体験の方法を全体で共有し、舎内外において感染の状況を見ながら、体験の機会を設ける。 ・行事を増やすことが難しいため、一つ一つの行事を大切に、行事ごとに発信していく。	A	A	・舎外の社会体験等を徐々に実施できている。今後も担任や保護者等と相談し、必要な体験を増やしていく。 ・行事のみでなく、日常生活等も様々な形で保護者に伝えていく。